

令和8年度第1回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎開催日時 令和8年6月25日（木） 午後3時30分～午後5時10分
- ◎場所 伊那市役所 庁議室
- ◎出席委員 吉田市長、福興教育長、宮坂教育長職務代理者、黒河内教育委員、中村教育委員、神山教育委員
- ◎欠席委員 なし
- ◎出席職員 北原教育次長、北原学校教育課長、矢澤教育環境整備課長、柴生涯学習課長、
北澤市誌編さん室長、塚越社会教育指導員、高嶋指導主事、小島指導主事、
北原こども部長、澁谷こども政策課長、宮下子育てサポート課長
牧田教育総務係長

1 開 会

教育次長

それでは定刻となりましたので、令和8年度第1回伊那市総合教育会議を開会いたします。
始めに吉田浩之伊那市長からご挨拶申し上げます。

2 市長挨拶

市長

改めまして、皆さんこんにちは。市長の吉田浩之です。

本日は、第1回総合教育会議ということで、皆さん御出席いただき、ありがとうございます。

教育というのは本当に幅広く、年齢も子どもたちだけでなく、高齢の方まで含めて、まさに人生そのものに関わってくる分野でもあります。そうした中で、教育を大切にすること、人を育てることが、これから最も大切なことではないかと思っております。どういったところで子どもの成長、あるいは学びに私たちが関わっていけるのか、そしてさらには、子どもだけではなく、学び続ける楽しさや喜びというものを、社会人になった皆さんにも感じていただきたい、そんな伊那市になればよいなと考えております。

特に、子どもの時に学ぶこと、学びの喜びというものを知れば、それが生涯を通じて備わっていくと思いますし、その中で、自分たちが学び続けること、そして学ぶ力を得ること、そのことを子どもたちにまづ身に付けてもらうような教育が必要なのではないかと思います。

私も時々例に出すのですが、民放のテレビ番組で、子どもが博士になって、自分の専門分野について話をする、自分の知っていることを語っている番組があります。大学の先生や専門家も舌を巻くような内容を話されるわけですが、あれは自分から学びに行って、いろいろな研究をしたり、情報を集めたり、本を読んだりということの表れであり、そこに出てきているのだと思います。

それは誰かが押し付けたわけでも、教えたわけでもなく、自ら取り組んでいるということであり、まさしくそれが、学ぶ力がその子に付いているということなのだと思います。

それが子ども一人ひとりに身に付いていけば、大きな力となって、その子の成長に大きなプラスになっていくだろうと、素人ながら勝手にそんなことを思っております。

ですから、学びが子どもたちにとって喜びになれば、それが大きな学力向上にもつながるだろうし、あるいは子どもの成長、ひいては将来の人生の中でも大きな喜びになるだろうと考えております。

そんな教育が伊那市の中でも展開されればよいなという思いでおります。

ぜひ、そんなことも考えながら、本日、第1回の伊那市総合教育会議の中で、皆さんとお話をさせていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、限られた時間ではありますけれども、意見交換を楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

教育次長

ありがとうございました。続きまして、福與雅寿教育長からご挨拶をお願いします。

3 教育長挨拶

教育長

改めまして、こんにちは。

市長には、この総合教育会議を開催していただきましたこと、まずは御礼を申し上げます。

ご存知のとおり、総合教育会議は、教育に関わる喫緊の課題について、市長、あるいは市長部局の皆さんと、教育委員会、そして教育委員会事務局との間で、それぞれ考えていること、思っていることを交換し合いながら、一つの同じ目線、そして方向付けをしながら、ともに教育の充実に向けて歩いていくための大事な会議であると認識しております。

本日は、また三点に絞って協議を一緒にしていただくことになろうかと思いますが、ぜひ、今日の話合いが前に進むひとときになればありがたいなというふうに思っております。

伊那市の憲章にありますように、「歴史と文化を大切にし、心豊かな人を育みます。」ということが、やはり今、市長のおっしゃっていたとおり、人を大事にするということなのかなというふうに私も思っております。ぜひ、大事な機会になりますよう、よろしくお願いします。

教育次長

ありがとうございました。それでは4番、協議事項ですが、市長の進行でお願いいたします。

4 協議事項

(1) 学校における働き方改革の取組状況について

北原学校教育課長、高嶋指導主事、矢澤教育環境整備課長より説明

市長

それでは、今、いろいろと説明をしていただきましたが、最初に何か、今の内容で質問等があればいただければと思います。

教育長職務代理者

課題として、持ち帰りや休日勤務があるんですけども、グラフの中では県よりも勤務時間外が少なくなっているんですが、総合的に判断すると、県と比較してどうかというのが大きいと思うんですが。

市長

持ち帰り部分が多いんじゃないかということですか。

教育長職務代理者

そんな不安もあります。

高嶋指導主事

この棒グラフは、全部含めたものが載っておりますので、持ち帰りや休日を含めた上で、県よりも時間外勤務が少ないという状況ではあります。早く帰っている先生が多いという結果でもあります。

教育長職務代理者

昔の人間なので、働く元気の源の一つとして、同僚との話や相談、情報共有というのは実際あるんです

けれども、日課の工夫の中でそういう時間を取っているかどうか。アンケートの中では拾い切れない部分かと思いますが。

高嶋指導主事

それぞれの学校で、5時間授業にしたり、早めに児童生徒を帰したり、会議の時間を短くしたり、減らしたりという、各学校での工夫はされています。その時間を学年の中、または同僚の中で話をする時間に充てることは、各学校で普通にされています。具体的にどうかということは、ちょっと把握はしていないんですけども、そういう声は各学校から聞いております。

市長

いわゆる職員会議というのは、今は減っているんですかね。

高嶋指導主事

そうですね。回数を減らしたり、時間を短くしたりする形で工夫はされています。

市長

他にいかがでしょうか。

黒河内委員

とてもよい取組が進んでいるという印象を持ちました。特に、2ページ目の7番「推進体制とフォローアップ」については、フォローアップが非常に重要だと思います。

よくKPIなどの測定指標を設定する際には、在校時間だけでなく、複数の視点で実態を把握することが大切だと思います。例えば、3ページにある「学校と教師の業務の3分類」について、学校ごとの進捗状況を一覧で確認できるようにすれば、取組の進み具合がより分かりやすくなるのではないかと思います。

時間だけが減ればよいというものではないと思いますので、今後、どのような数値や指標を管理していく考えなのか、質問です。

学校教育課長

ご指摘の内容はもっともだと考えておりますが、現時点では、業務の3分類に関するKPIは設定していない状況です。3分類に沿って取組を進めた結果として、在校時間の減少につながっていくものと捉えております。ただし、子どもたちに関わる時間を減らした結果、勤務時間が減るということでは本末転倒になりますので、取組の中身を見ていくことが大切であると考えております。委員からご指摘いただいた点も含め、今後検討していきたいと思っております。

黒河内委員

もう一つの指標としては、保護者や子どもたちの受け止めに把握することも有効ではないかと思います。例えば、先生が十分に時間を取ってくれているか、声を掛けた際に適切に対応してくれているかといった点についてアンケートを取ることも、実態を把握する上で効果のある指標になると思います。

現在はタブレット端末等も活用できますので、そうした方法で比較的簡単に把握することもできるのではないかと思います。

市長

1日の時間として見たときに、授業時間、授業準備時間、それからその他公務に関わる時間、あるいは、先ほど黒河内委員が言った業務の3分類のうちの「教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務」に入って

いるのか、あるいは「教師以外が積極的に参画すべき業務」がどのくらい入っているのかといった割合が見えてくると、負担感がどこにあるのかということが見えてくるのかなと思いました。同じような内容かもしれませんが、そういう捉え方もあるのかなと思います。

割合や声として、「ここがまだ大変なんだよ」といったようなことは出てきたりしているんですか。そこまではまだですか。

高嶋指導主事

まだそこまでは分析しておりませんので、今後、働き方改革推進委員会の中でも、そのようなことについて各学校にアンケートを取ったり、状況を確認したりしながら、分析を進めていきたいと考えております。

市長

あまり調査のために先生の負担を増やすのもどうかと思うんですけども。先生方が、いわゆる働き方改革というものをどんなふうに捉えているのか、進んでいるのか、あるいはまだまだなのかということもあると思います。先生方が働き過ぎて病んでしまったり、体調を崩してしまったりということになってはいけない、ということがまずスタートとしてあるのと、子どもにちゃんと向き合う時間を確保することは必要であると思うんですけども。

中村委員

質問でもあるんですけども、目標として「働きがいを実感できる」とある中で、ここでは数値のことが中心に書かれていますが、「がい」という点では、気持ちや主観的な部分についても、先生たちにきちんとアンケートを取ったり、こういうところに時間を取りたいのに取れていないといった希望を聞いたりして、それを満たしていくことも必要なのではないかと思います。

そのために余計なところにかかっている時間を減らし、先生たちが本当にやりたいと思っていることができるようにしてあげることが大事だと思います。時間が短ければよいということではなく、時間をかけてやりたいことができているのかという点について、アンケートを取ったり、聞き取りをしたりすることが必要なのではないかと思います。

市長

先生たちがやりたいことを我慢して時間外を抑えている、ということになってしまうと、逆に本末転倒のように思うんですけども。

神山委員

中村委員もおっしゃっていたんですけども、やりたいことということで言うと、今お世話になっている吹奏楽部の先生は、吹奏楽部をやりたいくて先生になったという方で、地域移行が進んでいることについて複雑だとおっしゃっていました。

市長

確かに、目的があって、やりたいことがあって先生になられたということはあるんでしょうけれども。

教育長

結局、先生たちは本当に子どもに関わるための時間というのは惜しまずにやってきていて、今なぜ働き方改革になってきているかという点、本来、先生たちが時間を費やしても、先ほど中村委員さんがおっしゃったような働きがいや、教師としてのやりがいをそこに感じていた時代がかつてはあって、そこに多忙

感を持つということは少なかつたのではないかと思います。今は、それ以外の部分が増えてきてしまっている。そのところを何とか削ることで、先生たちが本来自分たちでやりたいことができる時間をしっかり用意できるようにしていく必要がある。それが教育の質の向上につながるという前提にあると思います。

ここに「学校と教師の業務の3分類」というものが出ているわけですから、これを本当に実行していければ、かなり改善はできると思います。ただ、これを皆さんに理解していただきながら進めていくことが必要で、逆に言うと、今まで学校がやるのが当たり前だと半分思われてきた部分について、そうではないので、皆さんぜひ力を貸してください、一緒に分担してください、という流れにしていく必要があると思います。これを保護者の皆さんや地域の皆さんに理解していただきながら進めていくところが、大きな課題かなと思っています。

市長

それはやっぱり教員や学校だけではなかなか難しい問題で、地域の皆さんの意識や家庭への周知も一緒になってやっていかなければならないと思っています。

先生たちが業務を進める上で、AIを活用するということは結構あるんですか。先生にもよるんでしょうけれども。

高嶋指導主事

そうですね。少しずつ増えてきていると思います。

市長

先生方にとったら、効率的に準備をしたり、まとめをしたりということができれば、その分を別のところに時間を使えるので、いいのかなと思うんですけども。

高嶋指導主事

集計などについてもAIを活用したり、また、先ほど教育環境整備課長がお話をしたような形で、ICTの活用は先生方も積極的に進めております。

市長

子どもにそれを使わせてしまうのはまずいですかね。AIを。

教育環境整備課長

生成AIの活用については、先ほどもちょっと説明しましたがけれども、ガイドラインを策定して、4月から学校現場で使っていただくこととしております。まずは教職員の方から特性を理解していただいたり、実際に使っていただいたりということで、段階を踏みながら、だんだん子どもたちも使っていくという流れです。

小学校低学年の子どもについては一定の配慮が必要ですが、中学年、高学年、中学校になるにしたがって、だんだん活用していく方向にしていくという形で、全く生成AIに関わらせないということではなく、安全に使うためにどういうふうに学ばよいかということをガイドラインの中で定めて進めていくということで、今取り組み始めたところです。

市長

それは文部科学省の基準か何かですか。

教育環境整備課長

そうです。文部科学省の考え方に沿っています。

市長

それは子どもの学力向上につながるものなんですか。生成 AI の活用は、

教育長

使い方によると思います。要するに、それに使われるようになってしまって、それをもって結論が出たというような使い方ではなく、あくまでも自分の考えをまとめていくための補助的なものとして、一つのサンプルなり資料として見ていけるようにしていくということではないかと思います。

市長

これで全部宿題ができるぞ、となってしまうとどうかと思いますけれども。

教育環境整備課長

その点については今、集落支援員の方をお願いして学校に入っていただき、子どもたちに、今、市長がおっしゃったような「何のためにこれがあって、どう使えるのか」ということをよく学んでもらうようにしています。単に宿題の答えを調べてもらうためにあるのではなく、最後はやはり人間が考えなければ駄目だということは、学校の中でもたくさん話をして、理解してもらっているところだと思います。

市長

頭では分かっているけど、子どもだって楽をしたいですよね。自分だったら使ってしまうかな。

教育環境整備課長

危険性もありますので、全くそういったことに触れずに、とにかく伊那市の小中学生は一切 AI を使っていないということで、例えば 18 歳まで行って世の中に出た時に、実際には自宅で好き勝手使っている、そういう子どもが、それがルールに沿ったものなのか、はたから見れば危ない使い方をしているのかということ判断できない状態で世の中に出すというのは、そちらの方が危ないのではないかという考えがあります。どこまでうまくいくか分からない部分もありますけれども。

市長

両方ありますからね。諸刃の剣みたいなものもある。ちょっと先生のことからずれてしまったんですけれども、どうですかね。先生方の働き方改革は、データとして見るとだんだん改善されてきているように見えるけれども、その中に課題があるんだろうなと思います。よろしいですか。

一旦よろしければ、次の事項に移りたいと思いますが、何かありますか。

中村委員

前の市長が、伊那市で行ってきた ICT 教育のことを検証するというようなお話をされていたと思うんですけども、実際、これまでやってきて、良かったのか悪かったのか、まとめるようなお話があると聞いたんですけども、それはやっていらっしゃるんですか。

教育環境整備課長

今の時点で、まとまって、こういうふうですというようにお示しできるものはないんですけども、ただ、前の市長が気にされていたというか、よくお話に出ていたのが、この ICT 教育におけるデジタル的なものとアナログ的なもののバランスということでした。伊那市をどういうふうにしていくのかということ

を示すようにと言われておりまして、ちょっと遅れておりましたが、そこまでの整理は一応できています。それをどういうふうにお示しようかというところで、今ちょっと止まっている状況です。

学校教育課長

前任の課長がそのあたりの話をするのを聞いていたのですが、非常に数値的に示すというのは困難かなと頭を悩ませているところであります。いろいろなパターンがある中で、明確に進んでいますということを示すのは、正直難しいかなと思っています。研究はしていきたいと考えています。

市長

数値的には難しいかもしれないけれども、こういう課題が見えてきたとか、あるいは子どもたちがこんなところに関心を持ったとか、あるいは逆に、こういうところは身に付きにくくなったとか、そのような考察的なことというのは出しにくいですか。

教育長

それはもうできています。整理は付いています。

市長

ああ、そうなんですね。

教育環境整備課長

デジタルかアナログかという部分での整理です。ただ、全く何パーセントとか、そういう数字で表せるものではやっぱりないかなとは思うんですけども。

教育長

メリット、デメリット、そしてどういう方向性でいきたいと思いますというところです。

市長

もしよかったら、総合教育会議でなくても、定例教育委員会などでも教育委員の方に検討いただいた方がよいかもしれません。

ほかによろしいですか。

教育長職務代理者

人件費はすごい高額にもかかわらず、市費でたくさん配置をしていただいて、学校現場ではありがたいと思います。

市長

人を育てるために、人材育成については予算の確保をしていきたいと思っています。それでは次の議題に移ります。

5 その他

市長

それでは次第の5その他になりますが、全体で何かございますでしょうか。

特によろしいでしょうか。

6 閉会

教育次長

ご協議いただき、ありがとうございました。それではこれで令和8年度第1回伊那市教育総合教育会議を閉会とさせていただきます。